

芦生からの便り 第4回



冬の仕事 その1

こんにちは！芦生研究林です。
今年もどうぞよろしくお祈りします。

昨年は、秋と冬がごちゃごちゃした季節の到来でした。11月に早々と、芦生にも雪の便りが来たかと思えば、秋晴れの暖かい日が続いたりして、体の方もごちゃごちゃでした。この冬は、どうなるのでしょうか。

一昨年は、芦生もほとんど雪のない暖冬でした。が、しかし、その前の年は、2メートルを超す大雪だったのです。芦生は、スクールバスが通っていますから、「道」は行政が除雪車を出してしてくれるのですが、芦生研究林内は自分達でなくてはなりません。雪かき用のブルドーザーもあるのはあるのですが、手間とガソリン代を考えると、一冬に、そうそう何度もする訳にはいきません。その結果、芦生の職員及びそこに住む職員の家族は、雪に埋もれて春を待ち望むことになった訳です。この年は、雪がそうでしたから、大学と行ったり来たり私の私も、困ったことになりました。芦生に入ろうにも、道の状態が悪くて入れない、という事もしばしば。



この前の大雪(2006年)

皆さん、ご存じでしょうか？美山の茅葺きの里を。あそこの近くの文化村まで職員に出てきて貰い、私もそこまで行き、打ち合わせの会議をしたこともあります。また、そこまでもたどり着けない時は、その手前の「道の駅」に私の車を置かせて貰い（まだまだ、美山はのんびりして人情があります）、芦生の職員に車で迎えに来てもらったこともありました。職員も、手間のかかったことだと思います。

私は20代から今まで、ずっと京大にいたわけではありません。けれども、たまたま京大にいる時に、“大雪”がやって来るのでした。最初は、20代の時。この時の豪雪は、3メートルを軽く超しました。（正確には、長治谷で3.15メートル）地元の人と話していても、「ああ、あの時の雪ね…」で、20年たった今でも話が通じるほどの記録的な雪でした。地元の人との関係は、こんなことでもつられていきます。



あの時の豪雪(1984年)

ただ、南国育ちの私と、芦生勤務が決まってから車の免許を取った当時の掛長さんの二人が、ずば抜けて“芦生のネック”でした。気温が上がって、山に積もった雪が道路の斜面に滑り落ちてくるのを俗に“ずってくる”というのですが、週末などはその“ずり”の前に芦生を出なくては出られなくなります。それも、車の隊を組んででなければ危険でした。“芦生のネック”の2人の車は、隊の真ん中に入れてもらい、前後、ベテランの車に守られての移動だったのをよく覚えています。

新婚で芦生に住んでいた家内は、その掛長さんから、「ケンカしたら、いつでも京都まで送って行ってあげる」と、ありがたいお言葉を頂いていたそうなのですが、家内曰く、「死ぬ気でないと、あの雪道、掛長さんの車には乗せて貰えない」だったそうです。お陰で家内一人が帰ることもなく、冬をやり過ごせました。あの掛長さんに、今でも感謝です…？！

この年は、豪雪で山に食べる物がなく、沢山のシカが山から下りてきて死にました。今日、シカの食害が騒がれているのが、嘘のようです。温暖化も、その反動で激しい寒さを産み出すとも聞いています。また豪雪になれば、シカ被害やシカ対策といったことも消し飛んで、シカの密度は適正になるのでしょうか。この世の中、表裏一体とはよく言ったものです。シカの問題にしる、カシナガの被害にしる、もうちょっと長いスパンで考えた方がよさそうな気のするこの頃です。

これを読んでくださっている皆さん、この一年も、お健やかに過ごしてください。

(文：芝 正己)



著者プロフィール

芝 正己(しば まさみ)

京都大学フィールド科学教育研究センター(森林環境情報学研究分野 准教授)所属。

京都大学および宮崎大学・三重大学を経て1997年10月より現在に至る。

専門は、森林利用学、森林管理・情報学。

これまでの主な研究テーマは、

- ① 森林の経営基盤整備計画・評価法に関する研究、
- ② 持続可能な森林管理と森林認証制度に関する研究、
- ③ 森林の資源利用と保全計画に関する研究。